

150MHz 帯の電波を使用する登山者等の位置検知システムに関する調査検討
— 動物検知通報システムとの周波数共用 —

開催趣旨

山岳における遭難事故は、登山ブームによる登山者の裾野の拡がりに伴い増加傾向にあり、警察庁の統計によると平成 25 年中の山岳遭難は、全国で発生件数 2,172 件、遭難者 2,713 人、死者・行方不明者 320 人となりいずれも過去最多となった。

登山者の安全確保や事故発生時の対応の迅速化のため、電波を使った登山者の位置把握システムの有用性は早くから認識され様々なシステムが登場しているが、雪崩対策用のシステムを除いて普及には至っていない。

そのような中、山小屋などから周辺の登山者の位置等を検知し登山者の見守りができるシステムを実現するため、山岳での伝搬特性に優れた V H F 帯の電波を使用したいとする要望が出されている。

V H F 帯の周波数がひっ迫し、新たに周波数を確保することが難しい状況において、150MHz 帯の動物検知通報システムとの周波数共用化による実現が望ましいが、このためには、現行の周波数帯幅の中で使用できるチャンネル数を増やすなどの新たな周波数有効利用技術の導入が不可欠である。

一方、動物検知通報システムは有害鳥獣による農作物被害拡大が社会問題化していることに伴い野生動物探査等への利用が増大してチャンネル不足が懸念されており、当該有効利用技術の導入はこれの解消にも貢献することが期待される。

このため、本調査検討会は、150MHz 帯の電波を使用する登山者等の位置検知システムの有用性を確認するとともに、当該システムと動物検知通報システムとの周波数共用及び干渉回避に必要な技術的条件を明らかにすることにより周波数の効率的利用に資することを目的として開催するものである。

平成 26 年 7 月